

「地震予知」はウソだらけ

なんとも刺激的なタイトルだ。ここま
で言い切つていいのかと思うが、読んで
みるとそのとおりで、ほかに言いようが
ない。こうまではっきり言われると、関
係する役所や学者は堪らない。それかあ
らぬか、国立極地研究所長だった著者は、
北海道大学教授時代の業務上横領で北大
から訴えられた。ところが、捜査段階で、
著者と共同研究を行っていたノルウェー
のベルゲン大学を被害者とする詐欺事件
に、起訴内容を変えられてしまった。

これは業務上横領を立件できないため、
詐欺罪に切り替えたのだと思われる。と
ころが、被害者であるはずのベルゲン大
教授は詐欺にあつたとは思っていないと
証言している。つまり被害者のいない詐
欺事件なのである。にもかかわらず、札幌
地裁は有罪判決を出した。控訴するこ
とは当然可能であるが、時間ももつた
ないと、著者は控訴を断念した。この間
著者は一七日間勾留されている。国家
権力とは恐ろしいものだ。日本でこんな
ことが起こるとは思つてもみなかった。

地震予知がはじまつて四〇年余。莫大
な予算を使いながら、いまだ一度も予知
に成功していない。一時期、予知に成功
したと大騒ぎしていた中国も、今回の四
川大地震のあと、地震予知は一般には不
可能だと言明した。なのに、日本だけはあ
たかも可能であるかのように、予知され
たときに社会や人々の生活を規制する「大
規模地震対策特別措置法」(大震法)など

という法律まで作っている。一方で、阪
神淡路大震災のあとで、日本の地震予知
研究の元締めである地震予知推進本部を
地震調査研究推進本部と改称している。
なんとか予知ができるようになるだろ
うという見通しが立たなくなつてしまつ
たということだろう。はつきりしている
のは、いつかどこかで地震が発生するだ
ろうということだけで、いつなのかは、



年単位でもわからないし、どこかにして
も、必ずしも既知の活断層に関係のない
ところに現実に発生しているのだから、
もはやお手上げである。

ある地域に、今後何年のうちに地震
が発生する確率などというものが発表さ
れているが、必ずしも確率の大きいとこ
ろに発生しているというわけでもない。
兵庫県南部地震を引き起こした野島断層

で三〇年以内に大地震が起こる確率は
〇・四〜八% (〇・八ではなく八であり、
この幅もまた大き過ぎる気がするが)に
しか過ぎなかったというから、そんな数
字を教えてもらつても、どうしたらいい
かわからない。

前兆現象もしばしば話題になるが、そ
の現象はいつも地震が起こつた後で発表
されているものであり、前兆があれば必
ず地震が発生するということもいえない
し、発生する時には何らかの前兆があ
るのかどうかということも分かつていな
い。四川大地震の前にカエルの大発生が
あつたというが、中国当局は繁殖期にカ
エルが大発生するのは当たり前なこと
で、前兆でもなんでもないと明確に否定して
いる。

どう使つていいかわけの分からない地
震の発生確率の数値を発表するより、実
際に起きたときどうするかを考え、想定
していた地震動より大きな値が現実に観
測されていることを踏まえ、耐震基準を
どう変え、新設の構造物はもちろんのこ
と、既設の構造物に関してどう補強して
いくかを考えることが現実的な対応であ
ろう。何よりも、実際に何が可能であり、
何はできないのだということ国民に明
らかにする必要はあるだろう。批判する
人間を牢にぶち込むなどということが、
現在の日本の社会にあつていいものとは
思えない。

(評 中村靖治)